

提出日： 2024 年 7 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	教授	後藤孝夫

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日	1
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日	
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日	
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	研究期間中はイギリスにあるユニバーシティ・カレッジ・ロンドンに客員研究員として在籍し、以下の研究内容について日英・EUの制度比較をもとに研究を進めた。 1.鉄道事業における新たなビジネスモデルの検討 2.費用便益分析における Wider Economic Impact の現状と課題 3.交通政策におけるカーボンニュートラルの展開 4.公共サービスの連携と統合	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	上記の研究活動の結果、得られた研究成果の一部を 2024 年に以下のように公表した。 1. Transit-Oriented Development and Business Models of Railway Companies Workshop “Railway-induced Urban Development”(UCL 藤山拓氏と共同報告) 2.「日本の交通事業における費用便益分析の役割と課題」『経済学論纂』64(5・6)、pp.145-157。 3.「イギリスの道路交通分野でのゼロ・エミッション戦略の動向」『高速道路と自動車』67(5)、pp.41-44。など、他 1 編 4.「小さな拠点としての郵便局」公益事業学会第 74 回大会、近畿大学高橋愛典先生との共同報告)	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	上記の研究活動はいずれも研究途上のため、引き続き UCL 藤山拓先生との共同研究を進めるなど、上記研究期間中に知己を得た研究者との意見交換・共同研究を通じてそれぞれ研究を進める予定である。具体的には、共同研究を継続している UCL 藤山拓先生との共同研究では、現在海外ジャーナルに投稿する原稿を執筆しており、2024 年中には投稿を完了する予定である。 くわえて、上記研究活動をもとに、2024 年中に科研費など外部の競争的研究資金へ積極的に申請を実施する予定である。	